

営業マンから農家へ

市内・板橋地区で主にダイコンとニンジンをつくっている東郷直樹さん。つくばみらい4Hクラブでは兄貴的な存在で、面倒見の良い性格から、メンバーからの信頼も厚い。実家が農家でありながら、大学卒業後は一般企業に就職。環境コンサルタント会社の営業マンとして勤務する中で、多くの農家と出会い、農業の魅力に気づかされた東郷さん。実家に戻り、農業を継ぐことを決意。5年前から経営主となりました。

すべてはおいしい野菜のため

「野菜づくりは土づくりがすべて」。そう話す東郷さんの野菜づくりは「作物目線」で考えることが基本。数字上の気温だけでなく、その日の風の冷たさ、日の照り方などを肌で感じるため、必ず畑に出るといいます。土の乾き具合を確かめ、野菜の生育状況を見ながら、「いまなにが必要か」を考えることが大切だと話します。

野菜の状況を毎日チェックして変化を追い、必要な肥料を与えていきます。その肥料も、生育に合わせて自分で配合する徹底ぶり。「土の状態がよければ、雑菌の繁殖が抑えられ、野菜の

生育にも良い」と話し、土の中の生態系をうまくコントロールして土の中の雑菌を減らすことで、「農薬も少なくて済む」と言います。

また、作ろうと思えば同じ畑で年に2回作れるところを1回にし、土地をうまく休ませながら野菜づくりを行うのも、おいしい野菜を育てるために欠かせないポイントだそう。「野菜作りは日々勉強。今年ダメだったところは次に生かす。失敗を繰り返しながら良いものをつくっていく」というのが東郷さんの姿勢。「熱意が一番大切。人を成長させてくれる」。

地域の農業を盛り上げたい

地域の農業が潤ってほしいとの願いから、若い新規就農者の支援・育成にも力を入れている東郷さん。「歳が近いからこそ相談に乗れる部分もあるんじゃないかな」と、惜しみなくアドバイスをしているそう。

将来の目標は「ニンジンやダイコンづくりで、日本で一番の生産者になること」と目を輝かせます。すでにファンも多い東郷さんの野菜。「東郷さんの野菜だから買う、と言ってもらえると、もっと良いものをつくりたいって気持ちになりますよね」と笑顔を見せてくれました。

農業に一番大切なのは「熱意」。目指すは日本一の作り手。

とついで
東郷 直樹さん
（板橋／39歳）